

JA秋田ふるさと 令和6年産米

ふるさと稲作ほっと LINE QRコード 友だち登録をお願いします!

「ふるさとecoらいす」情報

令和6年産米「ふるさとecoらいす」取り組み要領

～全量ecoらいす認定を目標に計画的に防除を進めましょう！～

【目的】

令和5年産米は、近年稀にみる異常な高温により品質・収量共に大きな影響を受けました。基本に立ち返り高温に対応できる土づくりと水管理等基本技術を励行しましょう。

また、当JAではこれまで取り組んできた「求められる米・産地づくり」を基本に病害虫の予防対策を積極的に実施し、気候変動に対応した管理の実践により品質・収量・食味の向上を目標としています。

この取り組みの継続により、環境にやさしく、安全・安心な「ふるさとecoらいす」の生産を推進し、消費地や米卸の信頼を得られるJA秋田ふるさと米ブランドを一層強化することを目的とします。

【要件】

〔生産要件〕

- (1) 品 種：あきたこまち、ひとめぼれ、ゆめおぼこ、めんこいな 等級…1等及び2等（3等・規格外は対象外）
- (2) 種子更新：100%
- (3) 使用農薬成分数：10成分以内
- (4) 玄米水分：15.0%以内
- (5) 調 製：ふるい網目は1.9ミリを適正に使用したもの
- (6) 圃場での表示：ふるさとecoらいすの取り組みがほぼ100%になったことから、**ecoらいす取り組み表示札の設置を廃止します。**
※特別栽培米は継続して配置していただきます。

〔防除要件〕

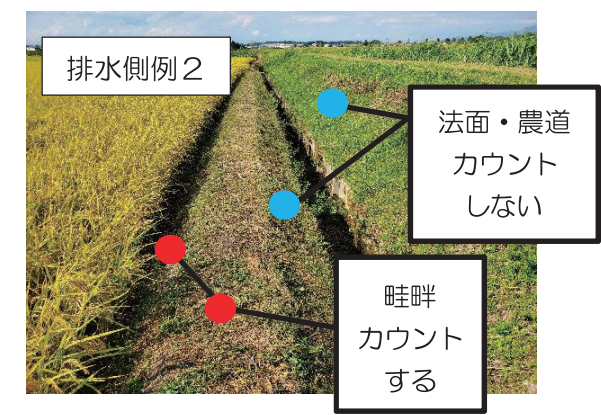
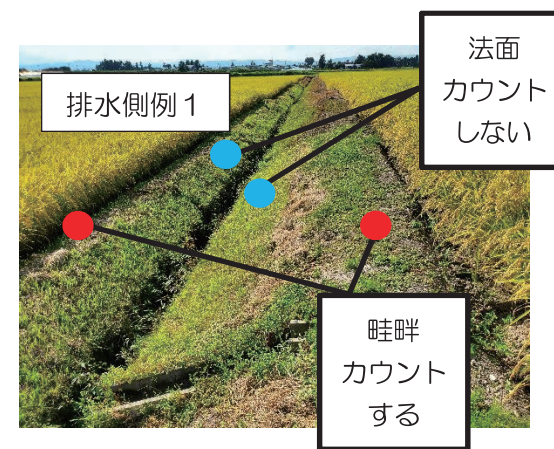
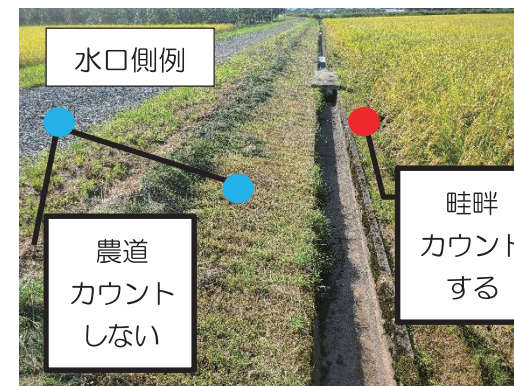
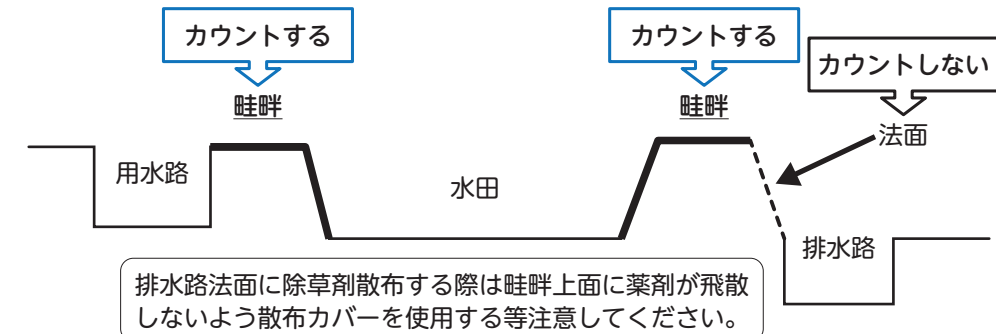
- (1) 種子、育苗、本田を通じ防除に使用した農薬の成分回数が10成分以内で生産された米とする。（同薬剤の2回使用は、2回カウントとなる。）
- (2) 初期除草剤及び畦畔除草剤の取り扱い
 - ① 初期除草剤は、田植え前に使用してはならない。
（使用した場合→「ふるさとecoらいす」対象外となる。ただし、田植え同時処理は可。）
 - ② 田植え作業前および収穫後の畦畔除草剤の使用は、農薬使用成分数のカウントをしない。
*特別栽培米の畦畔除草剤の取扱いは、ラウンドアップマックスロード1回のみ使用できます。ほ場周辺の雑草対策（イネ科雑草に穂を付けさせない）として収穫後、降雪前までの散布を推奨いたします。
 - ③ 田植えから収穫前の畦畔除草剤の使用は、農薬使用成分数をカウントする。

畦畔除草剤使用カウント解説図

時期	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
主な作業	浸種 播種	耕起 代かき 田植え	中干し 溝切り	出穂	収穫		
畦畔除草剤使用時期	田植え前 ②カウント無		田植え後の生育期間 ③ カウン ト 対 象			収穫後 ②カウント無	

※畦畔除草剤の散布場所に対する農薬成分カウントの取り扱いについて
農水省ガイドライン等に具体的には記載されていませんが、下記の通りといたしますので周知くださいますようお願いいたします。

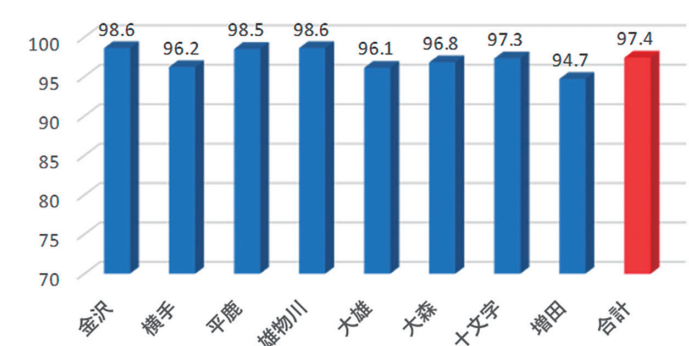
- 1、隣接する水田にある畦畔（中畔）は農薬散布カウントに入る。
- 2、水口・水尻の畦畔については下記の通りとする。



〔提出要件〕

- (1) 「防除計画書」
（4月下旬頃配布・米契約時提出）の提出
- (2) 「防除・栽培管理日誌兼証明書」
に変えさせていただきます。（7月上旬配布・最終防除終了後から8月下旬までの提出）

令和5年産ふるさとecoらいす集荷率（%）



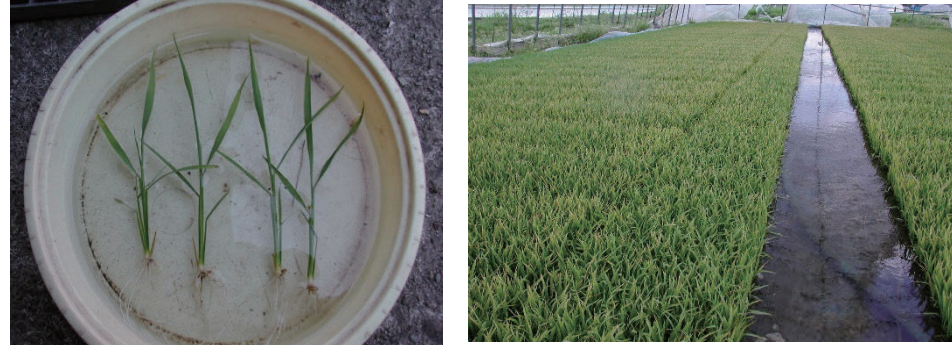
「ふるさとecoらいす」全量生産・出荷しましょう!!

JA秋田ふるさと版 ふるさとecoらいす・特別栽培米

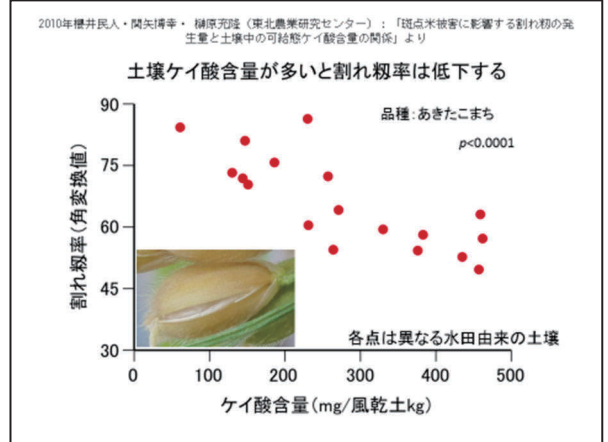
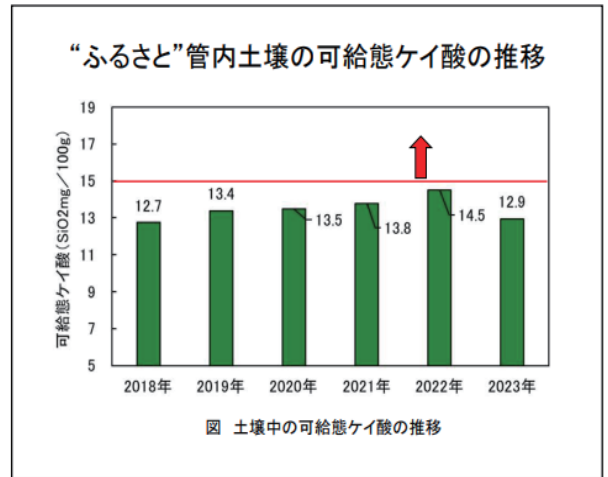
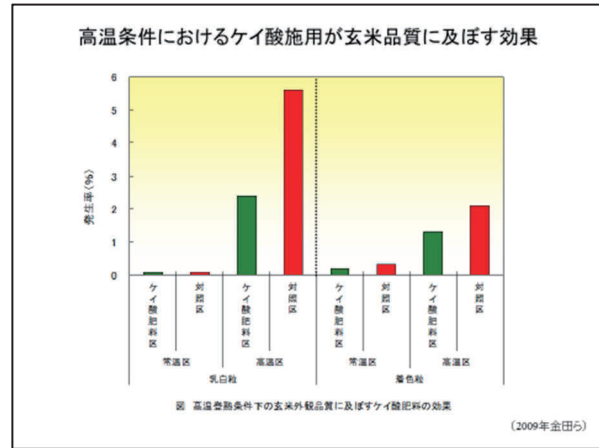
高温対策 米づくり⑩のポイント「根活」 ー反収・品質・食味 スリーアップ運動ー

JA秋田ふるさと

- ①健苗育成 根量が多い中苗が基本
★スムーズな活着は分けつとテンポの良い出葉を促進します。

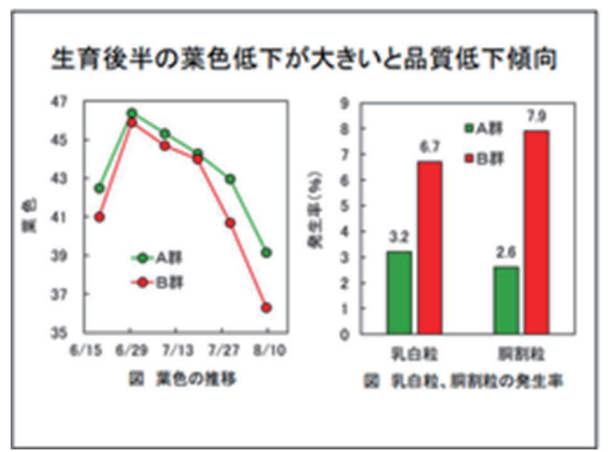


- ②ケイ酸主体の土づくり 根張りの促進
全層または追肥（流し込み）
★土壌分析によりふるさと管内の土壌はケイ酸が不足しています。ケイ酸は籾殻等と共に圃場外へ持ち出されるため補給する必要があります。

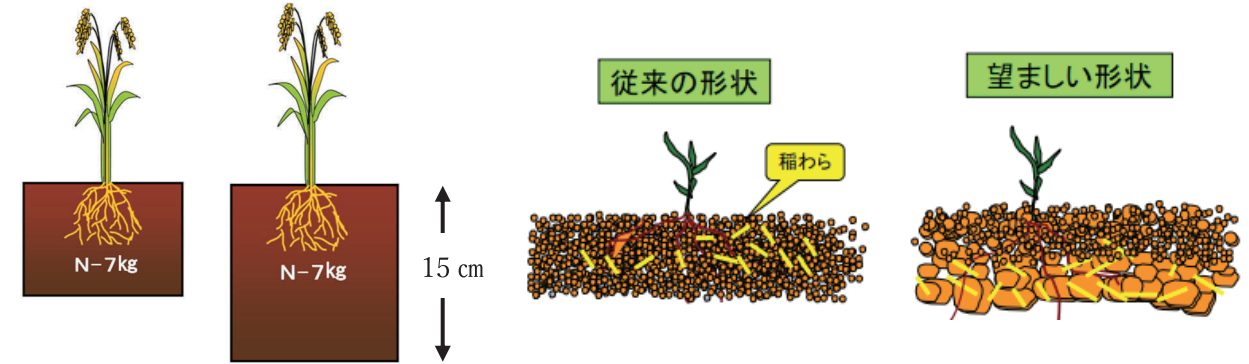


- ③有機質肥料・堆肥活用の地力増強
団粒構造改善等土壌改良による発根促進
★特別栽培米等への継続施用は減肥（将来的には低コスト）に繋がります。

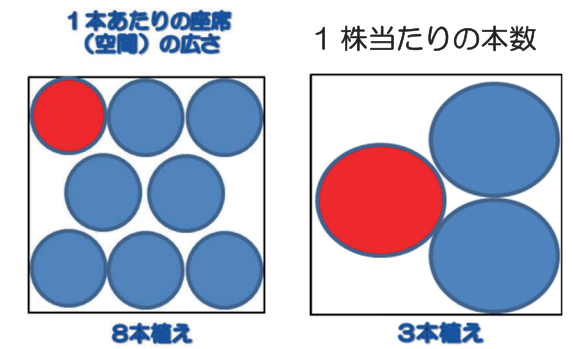
- ④登熟期（出穂以降）極端な葉色低下
（SPAD37 以下）とならない基肥量の設定
または追肥 茎と根を太らせる施肥管理
★幼穂形成期の栄養診断が大切です。



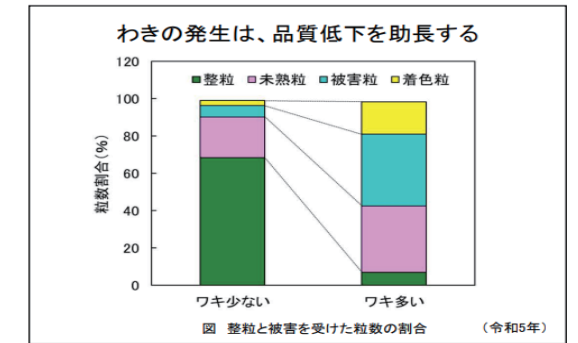
- ⑤耕深の確保 根域 15 cm（以上）と稲わらを沈める代かき
★浅い耕起は肥料切れを早め、異常還元（根腐れ）の原因となります。



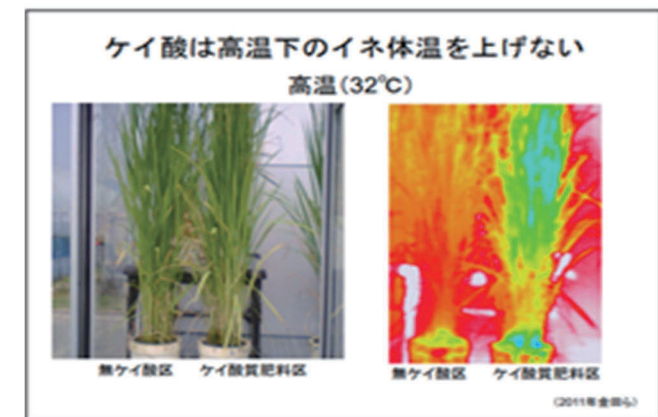
- ⑥栽植密度 70 株平均 3 本植えの推進
根の活着と分けつ遅延の茎数不足を補う分けつを促進する植付深 2~3 cm の励行（深植え注意）
★適正な植え込み本数（3 本）の確保は、株元まで光が届き太茎と根の活性に繋がります。



- ⑦メタンガス（硫化水素）を抑える中干しまたは深水管理 6 月中旬~7 月上旬実施
発根促進と有効茎を高める水管理深水や除草剤効果を高める畦畔管理（畔塗り）
★還元による生育抑制は玄米の品質低下に直結します。



- ⑧出穂後 20 日間の飽水管理 高温登熟の影響を最小限に抑える水管理 地温と地表の根を冷やす ★高温時の湛水は逆に根の機能を弱めます。



- ⑨完全落水期の遅延 根の水分吸収維持と未熟粒防止
★早期落水は、ふるい下米の割合が増えます。

- ⑩適期刈り取り 根の活力維持で胴割防止
★積算気温と籾の熟色・枝梗の黄化程度等から総合的に判断します。

(秋田県立大学 名誉教授 金田先生研究より引用)